おとがわ ふぉ～ゆ～

有勇優友

校長室だより
第 22 号
R3.9.16
文責　中西　勉

ホームランのサイン

　小さい頃から野球が大好きだった私。小学校の部活動は迷わずソフト部を選びました。練習は厳しかったですが、充実の日々でした。そうして迎えた６年生の夏の大会で、私はこんな体験をしました。

　緊張しながら迎えた初戦、私は５番キャッチャーで出場しました。その試合は投手戦となり、なかなか点の取れない展開が続いていました。そんな中、終盤にようやくチャンスが巡ってきました。２アウトながらランナー２塁で、バッターは４番のＨ君。彼の一打に期待が高まります。チーム全員の思いを乗せたＨ君の打球は、ショートの頭を越えて左中間を転々とし、２ランホームランとなりました。２点を取って押せ押せムードとなる中、私の打順が来ました。２アウトランナーなしなので、普通は監督からサインは出ません。しかし、監督は私にあるサインを出したのです。表情を変えず、相手チームのライトの頭上を真っすぐ指差す監督。それは、「ライトオーバーのホームランを打て！」のサインでした。監督の無言のサインをしっかり受け止め、私はヘルメットのつばをつかみ「わかりました！」と目で答えました。私は右バッターですが、日頃からライト方向への流し打ちを得意としていました。監督はそれを知っていて、私にライト方向へのホームランのサインを出したのです。相手ピッチャーが、長打を警戒して外角に投じた球を、私は逃しませんでした。私の打球はねらい通りライトの頭上を越え、ホームランになりました。私は、ホームランのサインを実行できたことに喜びを感じながら、ダイヤモンドを一周しました。二者連続ホームランで勢いに乗った私たちは、そのままこの試合で勝利を収めました。

　あれから４５年の歳月が経ちました。しかし、私はこの試合のことを今でも忘れません。部活動に打ち込んだ選手にとって、小学校最後の大会は生涯に渡る貴重な思い出となるでしょう。男川小の６年生も、もうすぐ大会を迎えます。一人一人の心に輝く思い出が刻まれることを願ってやみません。

【お願い】大会まで２週間を切った今、児童やその家族が新型コロナに感染すると、その児童や所属の部が大会に出場することができなくなる可能性がとても高くなります。選手が安心して大会に参加できるよう、新型コロナの感染防止に努めてください。児童やご家族に発熱や咳、倦怠感等の症状がある場合は、必ず登校を控え、積極的に医療機関での受診をお願いします。

☆☆☆

シリーズ「東京オリンピック」④　～諦めなければ夢は叶う～

　シリーズ第４回は、北京オリンピックに続いて連覇を成し遂げたソフトボールの日本代表チームに焦点を当てます。日本は、予選の最終戦で、宿敵アメリカにサヨナラ負けを喫しました。しかし、再びアメリカと対戦した決勝では、エース上野由岐子投手の見事なピッチングに加え、５回表に藤田倭選手がアボット投手から狙いすましてタイムリーヒットを放ち、さらに６回裏の大ピンチをショート渥美万奈選手の超ファインプレーで切り抜けるなど、アメリカに２－０で勝利して金メダルに輝きました。

　試合後に、上野投手は、「13 年という年月を経て、諦めなければ夢は叶うということをたくさんの人に伝えられたと思う」と語り、シリーズ第３回でお伝えした卓球水谷／伊藤ペアと同じく、諦めないことの素晴らしさを私たちに伝えています。また、キャプテンとしてチームを引っ張り、北京大会に続く金メダルに輝いた山田恵里選手は、「金メダルは一人一人がそれぞれの役割を果たして頑張った結果だと思う」と話し、個々が自分の役割を自覚し、チームとして戦うことの大切さを語っています。全員が「諦めない気持ち」を持ち、「チームとして戦う」ソフトボール日本代表の姿は、今後、男川っ子が学級や部活動などチームでプレーをしていく上で、最高のお手本になりますね。